

令和3年度板橋区青少年問題協議会(第1回全体会【書面開催】)各議題に対する委員の意見と区の考え方

令和2年度板橋区子ども・若者計画2021 進捗状況報告について			
No.	議題名・ご意見	該当課	回答
1	「子ども・若者計画2021」は子ども・若者をめぐる現状を分析しながら、特に、不登校、高校中途退学者、ひきこもり、子どもの貧困、ひとり親家庭の生活実態などに着目して計画作りが進められたと認識しています。それらの状況が、この計画の推進によってどう変化したのか、しなかったのか、課題がどこにあるのかが各事業について示されるべきだと考えます。令和2年2月に青少年問題協議会がこれらのテーマに沿った提言を出されましたが、これをどう生かしていくのか、提言と実際に行っている事業との関係はどうなっているのか具体的に示される必要があると考えます。	地域教育力推進課	「板橋区子ども・若者計画2021」では、課題解決の状況を定量的かつ的確に明らかにする指標を定めることは困難なため、施策が課題に寄与した度合いを把握することは難しいと考えます。ただ、取組の結果、既存事業の充実を図り、その有効性を向上させるとともに、新たな取組みにも着手することで、子ども・若者の社会的自立と活躍に関する各種事業の拡充が図られてきました。今後も、提言内容の実現をめざした事業を引き続き推進してまいります。
2	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の中で中止を余儀なくされた事業が多数に上っていますが、中止にせざるを得なかった具体的な理由や工夫してできたことがあるなら、そうしたことを具体的にまとめて、今後にかすことが必要ではないかと考えます。特にコロナ禍だからこそ、子ども、若者たちの安心、安全な居場所づくりを拡充、強化することが必要だと思います。自己形成の場、相談の場所、悩みを共有できる場所、ネットワークなどの構築について、さらなる検討をお願いしたい。	地域教育力推進課	予定していた事業を一律に中止とするのではなく、感染防止対策を徹底し、実施可能な事業を検討したうえで手法を工夫することにより、「新たな日常」を踏まえた新たな取組にも着手するなど、可能な限り事業の継続を図ってまいりました。今後とも活動を止めない工夫を凝らした事業運営に努めてまいります。また、子ども・若者が社会的に自立し、活躍できるよう、施策を展開・推進してまいります。
3	いたばし若者サポートステーションの利用者が増加し、進路決定者も増加しています。関係者の努力の中身をよく聞き、需要が高まっていることへのさらなる対応、支援体制の強化などについて検討していただきたいと思えます。	地域教育力推進課	誰一人取り残さず、未来を担うすべての子ども・若者・子育て家庭に対する切れ目ない支援を今後も推進してまいります。
4	一方で、若年者向け就職支援事業や若者・女性のための就職サポート事業が中止になっています。コロナ禍で企業側の事情もあるかと思いますが、頑張って実施しなければならぬ事業だったのではないかと考えます。厳しい時だからこそ役割を果たせるように、さらなる検討をお願いします。	産業振興課	新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、はじめての緊急事態宣言が発出されるなか、感染症対策が確立されない状況で、事業の要となるセミナーの開催や区内企業で就労を行う紹介予定派遣などが実施できる見込みが立たず、やむを得ず事業の実施を見送りました。現在はオンラインツールの普及や感染症対策の確立、ウィズコロナといった新しい生活様式も浸透しつつあり、ワクチン接種も進んできているため、事業手法を創意工夫しながら実施可能と考えております。令和3年度に続き、令和4年度も人手不足を課題とする中小企業と求職者をマッチングする支援事業を実施していきます。
5	コロナ禍で大変な中、どの部署も努力していただき、心より感謝申し上げます。	—	
6	全体としてコロナ禍での活動の制約を受けつつも、可能なところから、工夫をこらしてこうした状況下でも「支援を止めない」という姿勢でのぞまれていることが確認できました。やむを得ず中止せざるを得なかった施策は、今年度どうなっているのか気になるころではあります。	地域教育力推進課	予定していた事業を一律に中止とするのではなく、感染防止対策を徹底し、実施可能な事業を検討したうえで手法を工夫することにより、「新たな日常」を踏まえた新たな取組にも着手するなど、可能な限り事業の継続を図ってまいりました。今後とも活動を止めない工夫を凝らした事業運営に努めてまいります。なお、令和3年度以降の事業進捗状況は、別途ご報告いたします。
7	すべての機関が連携し同じベクトルに向かって進んでいくことが大切であると考えます。教育委員会の立場としては何をすべきかを考え実行していくことができたように思えます。各家族ではどのようなことが出来るか、地域としては、学校としての役割は、また関係機関としてはなど様々な場面で出来ることは違います。できることをできる場所が行うことが事業の進歩そして目標である板橋の子ども若者を救うことができると私は思っております。今後は各方面の考え実際に起こっている事例等を共有しより良い議論、施策実現に向けて進んでいけるよう行政がリーダーシップをとり、取りまとめてもらいたいと思えます。	地域教育力推進課	子ども・若者・子育て家庭が、誰一人取り残されないためには、行政はもちろん、家庭・学校・地域など、社会のあらゆる分野における構成員が、それぞれの役割を果たし、総合的に支援を行っていく必要があると考えます。いずれの事業においても、関係機関と連携し、意見やノウハウを施策に反映させながら推進してまいります。
8	今後も順次計画を進捗されますよう願います。	地域教育力推進課	「板橋区子ども・若者計画2021」は、令和3年度までの計画期間を終えた後、「いたばし子ども未来応援宣言2025」に統合され、妊娠・出産から若者の社会的自立に至るまで、誰一人取り残すことなく、切れ目のない支援を実行し、「若い世代が住み続けたいまち・住みたくなるまち」の実現に向けた施策を引き続き展開・推進してまいります。

9	<p>コロナ禍の状況において今までの生活が一変し子供たちにとっては非常に辛い状況が続いています。令和2年よりましになったのは一斉休校になっていないことです。令和2年6月の一斉休校明けの生徒の様子を思い出します。勉強が好きでない本校の生徒たちにとっても学校に行けることがどれだけ楽しいことなのか、人と話して話すが、触れ合うことがどれだけ楽しいことか実感できた瞬間だったと思います。</p> <p>地域の学校(都立高校・工業高校)としてどんなことができるのか、特に学校生活になじめない子供や悩んでいる子たちにどんなことができるのか。3年前から地域の小学校や中学校と連携をして工業高校に来てやれることを模索してきました。いくつか実施したこともあります。学校に通いたいけど大人数の中では厳しい生徒たちには少人数でやれる定時制での体験してもらいました。高校は普通高校や全日制高校だけではなく工業高校や定時制高校での学びや可能性を見つけてほしいと思います。そのために都立高校をぜひとも活用してください。</p>	教育支援センター	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、区のガイドラインに基づき2年以上に渡り、子どもたちの活動の制限をし、そのことにより学校に馴染めなかったり、コロナウイルスへの感染不安から、学校に登校しづらくなったりする子ども存在するのが現実です。</p> <p>ご指摘の通り、特に学校生活に馴染めない子どもや、その他悩みを抱え学校に通いづらくなっている子どもに対する手だては大変重要と考えており、教育支援センターでは、主に不登校傾向にある中学生に向けた進路説明会を令和2年度より継続して開催しております。その中で、近隣の都立工業高等学校や、昼間定時制の都立高等学校を複数校招聘し、多様な学びの可能性を具体的に子ども及び保護者にお示ししているところです。令和4年度も8月6日(土)午前11時から午後4時まで、板橋区教育支援センター研修室にて、同様の進路相談会を開催いたします。</p> <p>今後とも、教育支援センターと都立高等学校との連携の在り方について検討を続けてまいります。</p>
10	<p>コロナ禍の中、さまざまな活動や支援に大きな影響が出ていますが、今後も地道な対応をお願いしたいと思います。</p> <p>特に経済的貧困に対しては、対策を強化して欲しいと思います。</p>	生活支援課	<p>政府が実施している生活困窮者自立支援金や非課税世帯臨時給付金の業務を着実に実行しました。</p> <p>また、区独自のコロナ対策事業として、板橋区で修学のための資金の貸付を受けている学生に対して図書券3万円を交付しました。</p>
11	<p>青少年委員としてジュニアリーダーと活動していますが、ジュニアリーダーが企画、運営、成長の機会であるキャンプ、地区祭り等の青健事業が中止となり、何ができるか模索しています。この活動の少ない時期ですが、ジュニアリーダーの登録は増えており、その期待に何とか応えていきたいと思っています。</p>	地域教育力推進課	<p>感染防止対策を徹底したうえで実施可能な事業を企画・運営することは、大変なご苦労が伴うことと推察いたしますが、子どもたちの活躍の場を確保する観点の下、今後ともご協力をお願いいたします。</p>
12	<p>新型コロナの感染拡大の影響から、様々な活動が休止や縮小となっていることは、非常に残念なことだと感じております。</p> <p>そのため、令和2年度は、当初の予定通りに活動ができなかったことは、やむを得ないことだと思います。</p> <p>令和3年度以降も、コロナ禍の状況が、まだ続くであろうことを踏まえた上で、目標を設定し、計画を立て、進めていく必要性を感じました。</p> <p>「28 ひきこもり相談・ひきこもり家族教室」についてですが、コロナの影響や、開催回数を半減したことを考慮しても、利用人数がだいぶ少ない印象を受けました。</p> <p>広義でのひきこもり人口は、全人口の1%程度になるというデータもあるので、それを板橋区の人口に換算すると、3～4,000人ほどになりますので、実相談者数が2桁というのは、実際の人数と相談に繋がる人数との間に、だいぶ開きがあるように感じてしまいます。</p> <p>近年では、「8050問題」が取り上げられることも多く、ひきこもりの高齢化が進んでいます。50代以上の当事者や家族への支援に関しては、青少年問題協議会で協議する対象ではないかもしれませんが、協議の対象となる若い世代の、ひきこもり支援・対策を強化していかなければ、今後、「8050問題」がさらに深刻化していくことは間違いのないと思います。</p> <p>そのため、青少年問題協議会で、若年層のひきこもり当事者、家族、または予備軍となりそうな方への支援に力を入れることが、重要ではないかと考えます。</p>	予防対策課	<p>ひきこもり当事者が、インターネットを介して多様な暮らしをしている方と繋がることで、自室からでも外の情報が入手しやすくなりました。しかし、窓口相談は、ひきこもり当事者が来られることは少なく、ひきこもり当事者への対応に困っている親が利用しています。予防対策課が対応するひきこもり相談数は少ないものの、ひきこもり家族教室利用者の延人数は微増傾向にあります。</p> <p>また、コロナ禍以降は、不登校や高校・大学中退をきっかけに、10代から20代の子をもつ親の相談が見られていたため、児童・思春期精神科医がひきこもり相談に応じられるようにし、相談体制を強化しました。</p> <p>当事者がひきこもり始めたとき、当事者やご家族、関係者などが、すぐに相談に繋がるよう相談窓口と初期対応の周知の手法について、工夫が必要であると認識しています。</p>
13	<p>感染症拡大により、取組に制約がある中において各事業とも工夫がなされていることは評価いたします。オンライン活用を推進することと、さらにWeb面談等、オンラインで顔の見える取組を期待します。</p>	地域教育力推進課	<p>コロナ禍によって一気に飛躍した分野の一つとして、オンラインによる取組が急速に普及されました。今後とも活動を止めない工夫を凝らした事業運営に努めていく中で、ニーズや利便性等について総合的に考慮したうえで、事業実施方法を検討してまいります。</p>
14	<p>本計画は、近年の、ひきこもりや若年無業者、貧困、虐待、いじめ、不登校など、子ども・若者に係る問題の深刻化を背景に、子どもたちの自立に向けて、行政、地域社会など多様な主体が一体となって切れ目なく支えていくことをめざすものです。</p> <p>これまでの主な取組においては、一定の成果がみられますが、コロナ禍は、子育て家庭、子ども・若者の生活に深刻な影響を与えています。今後は生活実態を十分把握し、縦割りを超えた包括的支援に向けて、さらなる組織連携、関係主体との連携を強化していかなければなりません。また、そうした視点をふまえ、次世代計画と一本化する中で、切れ目ない支援を推進していく必要があります。</p>	地域教育力推進課	<p>「板橋区子ども・若者計画2021」は、令和3年度までの計画期間を終えた後、「いたばし子ども未来応援宣言2025」に統合されました。子ども・若者、そして子育て家庭に対し、包括的かつ切れ目のない支援を実行し、「若い世代が住み続けたいまち・住みたくなるまち」の実現に向けた施策を引き続き展開・推進してまいります。</p>

15	<p>ジュニアリーダー体験学習事業(No.2)の見解の中で『「新たな日常」を踏まえたうえで、工夫を凝らした事業運営』とありますが、既に実施した事業、予定している事業をご教授ください。</p> <p>また、学びプレイス(No.25)で受けた相談について、コロナ禍ならではの事例があればご教授ください。</p> <p>いずれも、「いたばし子ども未来応援宣言2025」実施計画2025の施策に反映できると考えます。</p>	<p>生涯学習課 地域教育力推進課</p>	<p>ジュニアリーダー体験学習事業は、会議をZoom開催としたり、ウォークラリーの実施にあたっては参加者の集合時間を分散させたりすることで、三密を回避し参加者の安全確保を最優先に事業の継続を図りました。</p> <p>「学びプレイス」は、一回目の緊急事態宣言中、学校の休校もあり、開催を中止していました。外出自粛が続き、特に、家庭に事情を抱えている中高生は、ストレスを溜めており、事業の再開時には、スタッフにその間の思いを聞いてもらうことで、ストレスを和らげている様子がありました。「学びプレイス」は、学習支援に加え、身近で気軽に相談できる機会ともなり、中高生の居場所としての側面も大切にしています。</p>
----	--	---------------------------	--

「いたばし子ども未来応援宣言2025」実施計画2025の策定について

No.	議題名・ご意見	該当課	回答
1	<p>「子ども未来応援宣言」における「選択と集中」について、何をどう選択し、何をどう集中したのか誰もがわかる言葉で表現する必要があると思いますが、子どもたちの未来を応援するプランに「選択と集中」という企業経営的な言葉は馴染まないと思います。「3つの重点宣言」はいいと思いますが、「選択と集中」の結果、こうなったというのはどうも後ろ向きな感じがします。</p> <p>しかも、単に、効率の悪いもの、実績が上がらないものは切り捨てるとか、「財政運営が厳しい」から、全体を縮小していくというような意味にも読めてしまいます。</p>	子ども政策課	<p>「いたばしNo.1実現プラン2025」でも掲げていますが、「選択と集中」は限られた資源をより有効活用する視点に基づくものです。既存事業をただ続けるのではなく、質に着目しながら常にブラッシュアップを続け、より効果的な区民サービスにつなげることを念頭に置いています。</p>
2	<p>”ポストコロナ時代を見据えた「新たな日常」等の環境の変化”について具体的に記述することが必要だと思います。「児童虐待報告件数の増加」だけではなく、コロナ禍の中で、子どもたちや若者たちの生活がどう変化したのかを具体的に記述する必要があると思います。「コロナ禍によって孤立化・孤独化が進行した」という記載もありますが、もっと具体的な分析が必要だと思います。なぜなら、その中から、新たな課題や可能性、行政需要が見えてくると考えるからです。コロナ禍の中で子育てにどんな影響が出ているのか、子どもたち・若者たちの居場所、成長の場はどうなっているのかなどの具体的な分析がないと、何が重要かが浮かび上がってこないのではないかと思います。</p>	子ども政策課	<p>ご指摘いただいた通りだと認識しております。当計画に位置づけられる事業は、子ども・若者たちに寄り添えるよう、常に具体的な課題意識を持って遂行していきます。</p>
3	<p>「子ども・若者計画」がターゲットとした不登校、高校中退、ひきこもり、子どもの貧困問題などが見えにくく、埋没してしまっているような感じがします。この問題は令和2年2月の青少年問題協議会が提言を出して終わりということにならないように、提言をどう生かしたのかがわかるような計画にしていきたい。</p>	地域教育力推進課	<p>「板橋区子ども・若者計画2021」に掲載されていた事業を、「いたばし子ども未来応援宣言2025」の新規掲載事業として位置付けることで、子ども・若者が社会的に自立・活躍できるよう引き続き事業を推進してまいります。</p>
4	<p>「3.施策の体系」の絵ですが、子どもや若者はどこにいるのでしょうか</p>	地域教育力推進課	<p>子ども・若者・子育て家庭を中心に、5つの基本目標と3つの重点宣言の下、学校・地域など、社会のあらゆる分野における構成員が、地域全体で支えていくというイメージとしています。</p>
5	<p>「あなたのそばには、いつも私たちがいます」というスローガンを生かすなら、計画自体を、せめて中学生や高校生が読んでもわかるようなものにしてはどうでしょうか。わかりやすい計画にするというのも大事なポイントかと思っています。</p>	子ども政策課	<p>ご意見ありがとうございます。今後、策定するにあたっては、分かりやすい表記を心掛けます。</p>
6	<p>「(仮称)子ども家庭総合支援センター」の設置が、本計画の重要な転換点と位置付けられています。板橋区が児童相談所設置自治体となることは、単に施設を持つということにとどまらない重要な重みがあります。児童相談所設置自治体になるにふさわしく、板橋区が子どもの健やかな成長・発達をどう保障し、区民はどういう役割を果たし、どういう区政をめざすのかという基本理念が示される必要があると思います。「(仮称)子ども家庭総合支援センター」基本構想では「めざす姿」や「3つの視点」などが示されていますが、いずれも施設が、どういう役割や機能を持つかということが示されているだけです。平成6年に「児童の権利に関する条約」を国が批准したことを受けて、地方自治体でも「子ども」のための基本条例を作っている自治体もあります。板橋区においても、子ども政策の土台となる根本的な考え方を示す基本条例の策定が必要かと思っています。ぜひ検討いただきたい。</p>	支援課	<p>令和4年4月1日にすべての子どもの健やかな成育を切れ目なく支援する子ども・家庭、地域の子育て機能の総合支援拠点として、板橋区子ども家庭総合支援センターを開設しました。また、令和4年7月1日からは児童相談所機能を開始しました。子ども家庭総合支援センターでは、子どもやその家庭からの幅広い相談や、特定妊婦、要支援児童、要保護児童等へのきめ細やかな支援を行っています。</p> <p>子どもが健やかに成長するためには、すべての区民が子どもの権利について理解を深めることが重要であると認識しています。区では、一時保護所に入所している児童や、児童養護施設に措置されている児童の声を聞き、代弁する、「アドボケート 意見表明支援員」を設置しました。また、令和4年7月に設置した児童福祉審議会の部会として、専門の知識経験を有する者で構成される「子どもの権利擁護部会」を設置し、児童の措置等に関する権利擁護に対応していきます。条例制定の検討に入る前に、まずは子どもの権利を保障する仕組みや、周知・啓発について取り組んでいきます。</p>

7	新型コロナウイルスは当分続きそうです。コロナウイルスでできないというだけでなく、多彩なメディアを使った事業の展開など、なおいっそう工夫していただけますとありがたいと思います。	地域教育力推進課	今後とも活動を止めない工夫を凝らした事業運営に努めてまいります。
8	大きな意味では適切な内容であると思います。 そのことは前提としたうえで希望ですが、子ども・若者・親(家庭)は常に支援される対象であるだけでなく、自らの人生や生活、街づくり、社会形成を担う主体でもあるという観点が全面(前面)に出てくるとよいと思います。	子ども政策課	ご意見ありがとうございます。当計画は未来を担う子ども・若者が、心身ともに健やかに成長し、社会的に自立するまで支援することを目的としており、基本理念において、ご指摘の観点は包括されております。
9	現在の区政の危機的状況も踏まえて今後日本経済の深刻な影響も区民レベルで受けて来ると予想され、この状況下では事業の選択と集中、そして人材の選択と集中が必須であります。また区内でも組織の横断的な実施により各部署の連携で誰一人取り残すことなく切れ目ない支援を願いたい。	子ども政策課	ご意見ありがとうございます。今後も、関係部署との連携を図り、子ども・若者支援を総合的に推進していきます。
10	不登校への対策はとても良い連携ができたのではと思います。開かれた教育課程は 今後の社会での子ども達の居場所づくりにつながります。i-youthは子ども達の居場所づくりに貢献する事業だと思われまます。 保幼少中さらには高等学校との連携での中途退学者への支援や引きこもりや就職についても支援を拡大し多くの受け皿を用意している点は非常に高く評価しております。	地域教育力推進課	相談体制の充実、居場所と体験の場づくり、校内体制づくり等を引き続き推進していくことで、子ども・若者の社会的自立を支援してまいります。
11	中学校の立場で協力できることを考え、実行したいと思います。	—	
12	今、板橋区内にはどのくらいの日本語を母語としない子供たちがいるのでしょうか。 本校にも各学年に数名ずつはいます。今後国際化がさらに進むにつれて増々そのような子供たちは増えてくると思います。多くの場合彼らは日本で働くこと、日本で生きていくことを望んでいます。板橋はそんな子供たちに対してやさしい街であってほしいと思います。	指導室 学務課	外国人の子どもは年々増加しており、令和4年5月時点で935人となっています。 区では、日常生活で欠かせない言葉の壁を取り除くために、23区でも最大級の日本語学級を設置するとともに、全く話せない子どもには別途、講座を設けて対応しています。
13	今後もしばらくは、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、進捗状況や課題なども日々変わっていくことが予想されます。 「第5章 計画の推進 2 進行管理 (2)指標による評価と進行管理」の中に、 >進捗状況の評価結果の反映、施策の見直しを行います。 と、すでに記載されておりますが、新型コロナウイルスの感染状況に対しても、しっかりと対応できるような、施策の見直しがおこなわれることを期待したいです。	子ども政策課	ご意見ありがとうございます。個別具体の事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、DXの視点からオンライン化を進めているものもあります。今後も、環境変更に対応できるよう、工夫しながら区民サービスの維持・向上をめざしていきます。
14	「いたばし子ども未来応援宣言」実施計画2025に統合されることによって、特に教育的視点や若者世代への視点が薄まり、取組が後退しないよう、教育委員会事務局及び本協議会の主体的関わりが重要であると考えます。	地域教育力推進課	「板橋区子ども・若者計画2021」に掲載されていた事業を、「いたばし子ども未来応援宣言2025」の新規掲載事業として位置付けることで、子ども・若者が社会的に自立・活躍できるよう引き続き事業を推進してまいります。
15	骨子P.5第2章1板橋区の現状(1)人口推移1～2行目、「50万人台で推移しており、令和元年までは増加傾向にありましたが、令和2年は社会減により僅かながら減少しました。」としてはいかがでしょうか。 骨子P.9～11 2区のこれまでの取り組み(1)～(3)のそれぞれのリード文の中に「取組の結果」が記載されていますが、下表の取組例と連動(※1として表示するなど)させてはいかがでしょうか。 骨子P.13 第3章1基本的な考え方、P.14 2重点的な取り組みのポンチ絵の中で、「DX」、「SDGs」、「ブランド」と「いたばしNo.1実現プラン」での意味合いを持つ標記がありますが、これらの詳細について、同プランを紹介しているP.12に記載してはいかがでしょうか。	子ども政策課	ご意見ありがとうございます。ご指摘いただいた内容を踏まえて検討し、原案までに修正させていただきます。

その他のご意見			
No.	議題名・ご意見	該当課	回答
1	やりとりや応答を経ずに、一方的に意見を回答するという形式はやりにくいですし、できるだけ避けたいものです。(仕方のないこととは思いますが)	地域教育力推進課	今後とも活動を止めない工夫を凝らした事業運営に努めていく中で、機器や環境等について総合的に考慮したうえで、開催方法を検討してまいります。
2	<p>私がこの協議会で感じそして今後期待したいことは、目的ゴールの明確化であり、またその脱落者(良い言い方が見つかりませんが)が再チャレンジできる環境の整備であると考えます。私が育てている植物を例に出すと同じ種で同じ土で同じ育て方であっても毎年違ったものが出来上がってしまいます。それは何が違うかと言いますと周りの自然環境(温度、湿度、日照など)や人的環境(水をあげる人、肥料をあげる人、施設を管理する人など)が違うのです。まして人はその何倍何十倍何百倍と難しい、しかし人は教えることで学ぶことで自分で考え環境を越えていくことができるという点が違うのです。これは多くの選択の連続性でできていることなので、小さな成功の連続や小さな失敗の連続、失敗や成功の回数によっても違いますが、時に大きな失敗や大きな成功もあります。例えば引きこもりなどは小さな失敗の連続ではないかと思えます。高校の中途退学は大きな失敗、そして難関校への進学は大きな成功、中学校でいつもトップの生徒は小さな成功の連続でしたが第一希望の学校に不合格して一転大きな失敗。このように子どもたちの心は日々変化していくのではと私は思います。そして大きな失敗や失敗を積み重ねてしまった子どもはキャリアのハザードが起こってしまうのだと私は考えます。大きい失敗を取り返そうとしてしまえば成功からはどんどん遠のいてしまいます。だから私はいつも考えます。私の子どもが幼稚園のときいじめにあった時、ある先生に言われた一言で『つまりいたらその場所に戻って1から始めなさい』子どもが3歳でつまりき今5歳なら3歳に戻ってまたやれば良い。2年生でつまりけば2年生からまたは始める。長い人生1年戻ろうが2年戻ろうがいつの間にか周りより先を歩いていることは多い 私はそう思います。早くそれに気付くことが必要ですが。</p> <p>そして2011年4月私の子どもが不登校になった時私はもうひとつのことを教えられました。学校に行けなくなって2週間私は学校の担任の先生に頼みました。『先生保健室でいいから学校に居させて下さい』先生は別の提案をされましたが私は先生を説得して保健室にお世話になることになりました。それから数日後クラスの仲間が声をかけてくれました。そして気がつけば家から保健室(学校)クラスと彼の居場所は変わって行きました。中学、高校、そして今は19歳で地方の学校に自分で生活をしています。2011年震災で多くの子どもたちが同じような状況で苦しんだと思えます。私も今も家にいたのかもしれませんが。失敗、成功そんなことではなく、ただその子どもにとって何が大切で何を今しなければならぬのか、そして何をすればその子どもが救われるのか、それを誰かが真剣に考え実行し環境を変えなければ前には進めないことを私は教えられました。2011年の今できることを精一杯やらなければ2021年の今はない。だから板橋の全ての子どもたちや今も子どもから抜け出せていない人へ今この瞬間の大切さを知ってもらい、その環境を変える勇気そして自分を信じ動かす強さをこの協議会をとおして伝えていければと思っております。</p> <p>長くなりましたが関係各位の皆様にはコロナ禍で不安多き中、板橋の子どもたちのために知恵や経験を与えて頂きたく存じます。先般の総合教育会議でのテーマであった生涯学習社会の実現、板橋区長が仰られた『学びの森』を実現させるためには森を大切に育てるという概念が不可欠だと私は思います。森はすぐには大きく深い緑にはなりません。しかしじっくりと時間をかけ丁寧に育てれば必ず大きな深い緑豊かな森になるでしょう。板橋区が大きな森になることを願っています。大きな森は全てを包摂しますが、時に厳しくもあります。私も森を造る小さな芽の肥料になる実をたくさん与えられる樹になりたいと思えます。</p>	地域教育力推進課	<p>板橋区では、すべての世代を対象として「人生 100 年時代」に人に必要とされる資質・能力として「主体的に課題を発見し、解決に導く力」、「協働して課題解決に取り組む力」、「失敗を恐れずチャレンジする力」を身に付けることを支援していきます。</p> <p>また、生涯にわたって学習することができる機会や場所を提供するために、社会教育の充実を図り、社会教育、家庭教育、学校教育が連携・協働することを推進していきます。さらに、社会教育、家庭教育、学校教育が連携・協働して創り出す「学びの循環」を通じて、板橋区のめざす将来像を実現していきます。</p>
3	行政の縦割りの発想を排除し、SDGaの理念「だれひとり取り残さない」を念頭に各部署が連携して「子ども・若者」に向き合っていたいただきたい。	地域教育力推進課	妊娠・出産から若者の社会的自立に至るまで、誰一人取り残すことなく、切れ目のない支援を実行し、「若い世代が住み続けたいまち・住みたいまち」の実現に向けた施策を展開・推進してまいります。
4	<p>現状、お送りいただいた書類を確認した上で、意見の回答をさせていただいておりますが、文章を読むだけでは、わかりにくい部分も出てきてしまいます。</p> <p>各ご担当の方に、補足説明などをしていただけるとありがたいのですが、対面での会議をおこなえない状況では、なかなか難しいと思えます。</p> <p>対面が難しいのであれば、Zoomなどのオンラインを利用して、補足説明などをしていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。</p> <p>ご検討いただけましたら幸いです。</p>	地域教育力推進課	今後とも活動を止めない工夫を凝らした事業運営に努めていく中で、機器や環境等について総合的に考慮したうえで、開催方法を検討してまいります。

令和3年度板橋区青少年問題協議会(第2回全体会【書面開催】) 各議題に対する委員の意見と区の考え方

平成30年度・令和元年度板橋区青少年問題協議会提言を受けての取組状況について			
No.	議題名・ご意見 (「特になし」旨の意見は割愛)	該当課	回答
1	【提言1】社会的自立に向けた居場所の拡充 ＜方策1＞家庭でも学校でもない、第三の自己形成の場の確保 この間の取り組みを通じて、区内の対象者数、事業量・事業規模についてどんな見通しができたかお示しいただきたい。また、必要な人に情報が届いているか、アウトリーチ型の情報提供ができていないか検証してほしいと思います。	地域教育力推進課	令和3年度の事業実績を集計する過程の中で、令和2年度との比較や、情報提供の手法や内容がより必要な人に届いているかの検証を行ってまいります。
2	＜方策2＞第三の居場所と相談機関の連携、効果的な支援体制の確立 予防対策課による引きこもり相談が継続していることは大事なことだと思います。自粛生活が長引く中で、引きこもりのハードルが下がっているのか、上がっているのか、解決に向かった事例があればご紹介いただきたい。	予防対策課	長期の自粛生活が引きこもりのハードルにどのような影響を及ぼしたのかの調査はしていませんが、コロナ禍以降は、不登校や高校・大学中退をきっかけに、10代から20代の子をもつ親の相談が見られるようになりました。引きこもり家族教室の利用者によれば、当事者に変化が見られない方がいる一方、「当事者が親に話しかけてくれるようになった」「家の手伝いをしてくれるようになった」「当事者が今後の生活費を考え始めて、就労相談を利用し始めた」などの好ましい変化が見られている方もいました。
3	＜方策3＞一人で悩まない、同じ悩みを共有できる場の提供 「悩みの共有」は問題解決の大事な入口だと思います。教育支援センターはその役割を持たないのでしょうか。生涯学習課だけの取り組みに留めず、また、学校教育の側からの進路相談だけでなく、支援体制も必要ではないかと考えます。	教育支援センター	教育支援センター及び成増教育相談室の教育相談では、カウンセリングにより、悩みを抱える相談者に寄り添いながら、気持ちを整理しつつ解決策を見出す力を引き出していきます。不登校、いじめや、友人関係、家庭の問題、発達障がい等に起因するコミュニケーションの問題、進路についての相談も行っています。また、板橋フレンドセンターでは、様々な理由で学校に行かないでいる中学生のために、在籍校と連携しながら、進路支援をしています。
4	【提言2】多様な進路選択を支援する機会の拡充 ＜方策1＞主体的な進路選択を支援する機会の拡充 キャリア教育やアントレ教育は、教育として位置付けていいのかどうか課題があるように思います。社会に出ること、仕事につくことに希望を見出すことは大事なことだと思いますが、学習そのものの楽しさを獲得できるようにすること、勉強がよくわかる環境づくりに力を入れていただきたい。	指導室	板橋区では、「わかる、できる、楽しい授業」をめざし、板橋区授業スタンダードで小学校第1学年から中学校第9学年まで義務教育9年間をとおして共通した一単位時間の基本の流れを示しています。その学習したことを記録し、振り返りながら学習を進めることで、自分の得意なことや、今後努力が必要なことを客観的に理解し、自分の進路やキャリアにつなげていけるようにしています。
5	＜方策2＞高校進学後の柔軟な進路変更の機会についての情報提供＞ 都立高校では「転学・編入学募集」を行っているとのことですが、必要な人に必要な情報が届くように、相談の機会が多様に存在することが必要だと考えます。学校にも家庭にも居場所がない、相談できる場所がないという高校生に身近な悩み相談の場所が必要です。	教育支援センター	教育支援センター及び成増教育相談室の教育相談は、高校生年齢相当までのお子さんが対象です。都立高校、定時制高校、通信制高校、チャレンジスクールなど、多様な進路の情報も取り入れながら相談に対応できる体制をとっています。
6	＜方策3＞情報発信の仕組みと情報の一体的活用 コロナで公開学習会が行われず、市民活動フォーラムによる子ども・若者の声を聞く機会が作れたことはよかったと思います。世話人会などの積み重ねが、様々な条件を乗り越えて開催する力になっているのでしょうか。子ども・若者の声を聞く取り組みは、引き続き行っていく必要があると考えます。	生涯学習課	これからも様々な機会をとらえ、子ども・若者の声を聞く機会をつくっていきけるよう努めていきます。
7	【提言3】関係機関との連携の推進 ＜方策1＞都と区の連携 都「自立支援チーム」と区SSWの情報共有がコロナで活動休止というのは理解しがたいです。引き続き連携の努力をお願いしたい。	教育支援センター	都立高校が、SSWが過去に支援をした子どもの情報提供を求めてきた場合には、原則として生徒本人や保護者の了解を得たうえでの情報提供は可能です。個人情報保護に配慮しながら、生徒の正しい育ちと学びのために必要な連携を図ってまいります。
8	＜方策2＞学校、家庭、地域の連携・協働 青健、ジュニアリーダー、いきいき寺子屋などの活動について、コロナで中止にしたところ、感染対策をしながら実施できたことなどを、全体で共有しあうことが必要だと考えます。	地域教育力推進課	各団体の「新たな日常」を踏まえた、活動を止めない工夫を凝らした取組内容について、引き続き関係機関との共有を図ってまいります。

9	<p><方策3>関係支援団体との連携 食品配布会は、利用者がどれくらいだったのかお示ください。 フリースクールなどとの連携を支援する不登校支援のコーディネーター配置について、動きがないとのことですが、十分情報を収集し取り組んでいただきたい。</p>	生活支援課 地域教育力推進課	<p>令和3年度は、5回食品配付会を実施(うち1回は臨時)し、延べ885名に対して食品等を配布しました。 コーディネーターの配置については、国や都の方針や取組等の情報とこれからの動向を十分注視し、適切に対応していきます。</p>
10	<p>コロナ禍で様々な活動が制限される中、工夫を重ねていただきありがとうございます。</p>	—	
11	<p>事業実績のない施策については速やかな実施を望みます。特に、提言3[方策1]に関する事業は、なぜ活動停止なのか、なぜ未だに調整中(検討中)なのか、理解に苦しむところです。</p>	教育支援センター	<p>SSW業務が都の補助金交付事業であり、人員体制は、支援対象である区立幼・小・中学校であること(区教育委員会の対象と同じ)を前提としていることから、高校生の支援に迅速に対応することは困難な状況にあります。都からの依頼があれば個人情報の取り扱いに配慮しつつ必要な連携は可能です。</p>
12	<p>取り組みについては、最も重要だと思う点は『子ども、若者が自ら進路を主体的に選択し社会的自立を果たすことが大切である』というところです。 また区の取り組みでは生涯学習社会へ向けた取り組みに注目しています。さらには部活動改革については教職員のやり甲斐や生徒への影響なども考えながら進めてもらいたいと思います。今現状の教職員の働き方や労働時間短縮も視野に入れながら少ない時間で成果をあげる方策を望みます。またi-youthなどの事業では居場所づくりや不登校対策などに効果が出ることを望みます。</p>	地域教育力推進課	<p>子ども・若者が自らの進路について多様な選択ができるよう、部活動などの校内活動や、i-youthなどでの学校外における自発的な活動などを通じて、子ども・若者の将来の可能性を広げる活動の環境整備に努めます。また、セミナーや相談会を通じて、自分の将来について自ら考えるために必要な情報の発信を図ってまいります。</p>
13	<p>多様な進路選択を支援する機会の拡充について、不登校者等には対応をとれていると思われませんが、区内の中学生に対してまとめて高校を数十校集い高校説明会等を開催してみたいと思います。(中P連、中P連OBが主体で)</p>	地域教育力推進課	<p>令和4年7月18日に中P連・中P連OB会が主催となって、中学校第9学年の生徒とその保護者を対象とした「合同進路相談会」を開催いたします。</p>
14	<p>i-youthや学びプレイスなど気軽に通える場所がある。これからも更に拡充して行ってほしい。</p>	生涯学習課	<p>これからも多様な子ども・若者が気軽に来られる多様な居場所づくりに努めていきます。</p>
15	<p>個別相談会、セミナーは参加者のアンケートからも有意義な取り組みと考えます。引き続きの開催をお願いします。 部活動は自分の経験からも存続させたく、地域の協力も必要ですが、協力者の技量、指導力の育成制度も検討していただきたく考えます。</p>	教育総務課 教育支援センター	<p>不登校生徒のための進路個別相談会は、都立高校や私立通信制高校等の協力をいただきながら、今後も継続して行ってまいります。 中学校の部活動は、現在の形では持続可能性が低いことが大きな課題ととらえられ、国などにより、新たな制度設計が検討されています。これらの動向を踏まえつつ、協力者の技量、指導力の課題を含めた抜本的な検討を行う時期にあると考えております。</p>
16	<p>現在、不登校傾向や不登校の状態にある中学生対象にした、高校個別相談会や進路選択に関するセミナーが開催されたことは、とても良い取り組みだと思いました。これからも、こうした相談会やセミナーを継続していくのであれば、より多くの人たちに周知していくと良いと思います。少しでも多くの「情報を必要とする人たち」に情報が届けば、助かる人も増えるのではないかと思います。また、開催回数を増やしたり、開催場所を変えてみたり、情報提供をする高校や進路先の種類を増やすことができれば、より効果も上がるのではないかと思います。</p>	教育支援センター	<p>不登校生徒のための進路個別相談会は、都立高校や私立通信制高校等の協力をいただきながら、今後も継続して行ってまいります。さらに教育委員会指導主事や板橋フレンドセンター、教育相談室などから現場の情報を収集しつつ、生徒や保護者のニーズに即した高校等進路先の種類を増やしていく予定です。また、より多くの必要とする人たちへ情報が届くように、早い時期からの全中学校への周知に努めてまいります。</p>

「いたばし子ども未来応援宣言2025」実施計画2025の策定について			
No.	議題名・ご意見（「特になし」旨の意見は割愛）	該当課	回答
1	●69ページ コラム「若者の支援拡充について」 「中高生の声を聞く」取り組みをもっと強調できないでしょうか。	生涯学習課	i-youthとしては「若者支援の視点(生き抜く力の醸成)」として挙げた「若者の声を活かし、主体的な参画の促進」がめざすところですので、その主旨で「中高生の声を聞く」取組を引き続き展開してまいります。
2	●8ページ (2)家庭の役割 この間の文教児童委員会の議論で気になったことですが、「親の愛情」と無縁に育つ子どもたちがいることについて、どう表現していくのか、検討の必要があるのではないかと思います。	子ども政策課	ご意見ありがとうございます。社会的養育の視点については、次期計画策定に向けて、今後検討していきます。
3	IV-2ですが、「自信をもって大人へと成長する」という表現が適切なのか、やや気になります。また「子どもと家庭を支援します」とありますが、事業としては子ども・若者関係のものだけが並んでいます。	子ども政策課	「基本目標」及び「施策の方向性」につきましては、「板橋区次世代育成推進行動計画 いたばし子ども未来応援宣言2025」(10年計画)において継続的に掲げているため、今回も変更しませんでした。表現や内容の整合性については、次期計画策定の際に検討いたします。
4	全体的な不登校を減らすためには小学校からの防止策が必須であり、早いうちのケアが大事になってきます。また虐待数については不登校数同様に新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われ、今後も増加する可能性が高く、子ども家庭総合支援センターとの連携が重要であると思われれます。子どもが安心して遊べる場所づくりを多くの方が望んでいる現状ももっともな意見であると考えます。今後は以上のことから第一に安全な環境づくりがやはり大事であり、その上で不登校や虐待など今後増えていく問題について考えていくことが必要になってくると思います。	地域教育力推進課	板橋区子ども家庭総合支援センターの開設に伴い、子育てしやすく安心な環境の提供、特別な支援が必要な家庭への支援、地域の子育て支援の推進に取り組み、すべての子ども・家庭に寄り添ってまいります。また、子どもたちの安全を確保するために、子どもたちの防犯意識の啓発とともに、パトロール等地域の見守りによる防犯活動など、地域の人材やあらゆる資源を活用した取組を推進してまいります。
5	実施計画に記載の事業はどれもすばらしい取り組みと考えます。悩みのある人が相談できるよう引き続き区からの発信をお願いします。	地域教育力推進課	悩みや不安を抱える方のため、相談体制の充実と周知に引き続き努めてまいります。
6	相談会やi-youthにおける中高生企画事業をもっと広報してもらって、不登校が悪い事というイメージを変えられることができると望ましい。	生涯学習課	i-youthにおける中高生企画事業と、不登校が悪いというイメージを変えることは直接関係することではないので回答できません。
7	小・中学校における不登校の状況に、不登校の出現率や学校復帰率のデータがありますが、改めてお伝えせずとも、すでにご理解いただいているかとは思いますが、「出現率が下がれば良い」「復帰率が上がれば良い」という捉え方はしないようにして欲しいと思います。不登校対策は、不登校をなくすことを目指すのではなく、不登校状態になった場合の、学習や生活への支援や、社会との繋がりを途切れさせないということに、重点を置いた対策を検討していくことが重要かと思えます。	地域教育力推進課	一人一台端末を活用したオンライン支援を全小・中学校で実践することを通じ、学習機会の確保に努めるとともに、教室以外の多様な居場所づくりを推進することで、すべての不登校児童・生徒が適切な支援を受けられるよう取組を進めてまいります。

板橋区子ども家庭総合支援センターの設置について			
No.	議題名・ご意見（「特になし」旨の意見は割愛）	該当課	回答
1	総合窓口が民間委託になっていることなどが、気になっています。最初の入り口の相談が最も大事だと考えるからです。最初の窓口が「カウンセリング」の力を持っていないと、支援につながらないからです。24時間365日の「子どもなんでも相談」に相談した人から、電話がなかなかつながらなかった、つながったら区の相談窓口を紹介されたとのこと。電話をした人は、電話の窓口で「カウンセリング」を期待しているのだと思います。「最初の相談」こそ、最も大事ということを是非くみ取っていただきたい。職員全体の意思疎通をよくして、頑張ってもらいたいと思います。進捗状況を、適宜ご報告いただくことを要望します。	支援課	子ども家庭総合支援センターの総合受付では、来庁者（相談者）の受付、ショートステイ、ファミリーサポートセンター、育児支援ヘルパーの各業務の受付を委託により行っております。相談者の希望がある場合は、全てのケースについて職員に引き継いで対応を行っております。「子どもなんでも相談」の電話受付については、傾聴姿勢を基本とした対応を行い、相談内容に応じて関係機関をご紹介します場合と、継続した相談の希望や必要性がある場合は子ども家庭総合支援センターの職員へつなぐ場合がございます。委託による相談受付業務と職員による継続的な相談対応を効果的に行うことにより、相談希望者のニーズへの対応を充実してまいります。なお、子ども家庭総合支援センターの事業の状況につきましては板橋区議会等を通じて広く区民の皆様にお知らせしていく予定です。
2	児童相談所はマスコミが問題となることだけを報道するので正しく住民に理解をされず敬遠される傾向があります。ぜひ親しみやすく相談しやすいイメージを打ち出していきたいと思っております。	支援課	子ども家庭総合支援センターの開設にあたりましては、近隣住民の皆様への区民説明会や広報いたばしによる周知等を図ってきました。また、板橋区議会への丁寧なご報告に努めて事業を進めてきたところです。開設後におきましても、地域の民生・児童委員の皆様へ視察を行うなど理解の促進に努めてまいりました。開設後も、引き続き親しみやすく相談しやすい体制づくりに努めてまいります。
3	児童相談所機能と子ども家庭支援センター機能を併せ持つ施設を設置するというアイデアはよいと思っております。人員や予算の面で十分な条件整備がなされることを強く望みます。	支援課	専門職員が一つの施設に集まる効果を活かすことで「相談のワンストップ化」「迅速できめ細やかな支援」を実現するために必要な人員や予算を確保し対応してまいります。
4	7ページの1次予防、2次予防、3次予防の図は解りやすく案件をいかに減らしていくか、軽度のうちに食い止めていくかが重要であると感じました。また重度化しないようにするためのコミュニケーションも連携する機関や他部署とも積極的に行ってもらいたいと考えます。	支援課	児童虐待等への対応については、これまでの発生対応だけでなく、未然防止の対応が重要と認識しております。関係機関や家庭へのアウトリーチを強化し未然防止の対応を進めてまいります。
5	色々な問題を抱えている子どもたちにとっては素晴らしい取り組みだと思われそうです。各家庭にどんどんアピールが必要かと思っております。	支援課	広報いたばしやHP、関係機関への周知、小中学校の児童生徒への直接の案内など周知を進めてまいります。
6	この機関が切れ目なく子どもの成長や子育て支援の拠点となることを期待します。	支援課	子どもや家庭にかかわる関係機関と連携し、必要な支援を進めてまいります。
7	支援センターの開設でひとりでも多くの悩みを持つ子どもが健やかに成長することに期待します。	支援課	子どもや家庭にかかわる関係機関と連携し、必要な支援を進めてまいります。
8	めざす姿の「子どもの健やかな成長を切れ目なく支援する」の為に、地域・学校等・支援センターの関係を風通しの良いものにできることを望む。	支援課	子どもや家庭にかかわる関係機関と連携し、必要な支援を進めてまいります。特に関係機関とはガイドラインを策定し関係性の見える化を進めてまいります。
9	ワンストップでの相談や支援のシステムを、他所でも取り入れることができると良いのではないかと思います。例えば、不登校やひきこもりに対する相談があった時に、進学、就労、福祉、医療などの相談を一箇所ですべてできれば、素早く適切な対応が可能になるのではないかと思います。目黒区や北区では、ひきこもり対象のワンストップでの相談会を開催した事例があると聞いたことがあります。すでに先行事例があるのであれば、その事例を参考にして取り入れてみることを、検討してみても良いのではないのでしょうか。	支援課	板橋区におきましても、子どもやそのご家庭での課題等に対して、要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議において、関係機関が集まり役割分担の上で支援を行う仕組みを実施しております。引き続き関係機関との連携を強化し、支援が必要な子ども等への対応を行ってまいります。

その他意見			
No.	議題名・ご意見（「特になし」旨の意見は割愛）	該当課	回答
1	第1回の全体会の議事録はできているのでしょうか。	地域教育力推進課	書面開催につき議事録はございません。
2	第1回の全体会に出されたみなさんのご意見を知りたいのですが、教えていただけますでしょうか。	地域教育力推進課	令和3年度分として、今回集約したうえで回答いたします。
3	事務局職員の皆さんや委員の皆さんとの議論は真剣で実りある内容が多かったように思います。分科会では様々な意見が出て、学校現場と行政そして保護者、地域そして外部団体など同じ問題でも視点が大きく異なっていることを経験し解決の難しさがあることを実感しました。その上で順序を整理し本当のゴールをすべての分野の方々が共有していくことこそが板橋区の青少年の問題解決に最短のルートだと私は強く思わされたのを思い出します。今後も多くの問題を抱える青少年、子供達を微力ながら救えるように励んでいきたいと思っておりますので今後よろしくお願いいたします。	地域教育力推進課	子ども・若者支援に携わる様々な事業者・関係機関・団体等へ、区の考え方や情報提供を積極的に行い、連携を深めるとともに、より多くの団体等と連携・協働できる体制整備を今後とも推進してまいります。
4	小中各校のCSを学びのエリアごとに年数回開催してみたいかと思いますが、いかがでしょうか。	地域教育力推進課	学びのエリアの連携を深めるため、すでに合同でCS委員会を開催している学校もございます。CS委員会で協議された内容が、学びのエリア内の学校運営に反映されるため、学びのエリア合同で開催されることは効果的と考えます。